

郡山市

革新懇 ニュース

237

発行：郡山市革新懇事務局 Mail: ugp25200@nifty.com

語り伝える郡山の戦争

第三十八回平和のための

郡山の戦争展

実行委員会事務局長 伊藤 洋

平和のための郡山の戦争展の事務局を担っている「郡山の戦争と平和を考える会」は、第一回戦争展の開催から生まれました。今年で結成し四十年になります。そこで確認されたのは、①地域から戦争の掘り起こしを②地域で戦争と平和について学びあうということでした。具体的には、八月には「平和のための郡山戦争展」、十二月八日には「不戦のつどい」、二月十一日には「建国記念の日を考えるつどい」、四月十二日には「郡山空襲跡地めぐり」を実施してきました。しかし、コロナ禍のために実施できないものもありました。特に、「平和のための郡山戦争展」は第三十七回（二〇一九年）からは実施することができず中止にしてみました。

今年度になって実施したのが「郡山空襲跡地めぐり」でした。郡山空襲から七十七年平和憲法を考える」と題して実施しました。ロシアのプーチンによるウクライナ侵略が侵攻されている中だったためかマスメディアの反応がとてよく、好意的に記事を書いてくれました。福島テレビは当日と数日後「未来に語り継ぐ」として放映してくれました。知人や同級生などからその反応が寄せられました。新聞では、「七十七年前、ウクライナの人々と同じ悲しみを郡山市民も体験した。同時に先の大戦で日本は、今のロシアと同じ侵略者でもあった。反戦を心に刻む一日にしたい」（河北新報）。

「郡山空襲とテレビで見るウクライナの出来事がどうしても重なる。戦争は絶対に繰り返してはならない」「身近に爆撃があったことを知らなかったのが衝撃でした。改憲派の声が強まっているが、九条を守る訴えをどうしたらいいか私なりに考えたい」と参加者二人の声を載せた「しんぶん赤旗」。地元二社は「世界に目を向ければウクライナ侵略など紛争が絶えない。空襲跡地で話を聞いた全員が口をそろえる『郡山空襲を忘れてはいけない。未来の子どものためにも平和の尊さを訴え続けていく』。この言葉が胸に残る」（福島民報）。「空襲で犠牲になった学徒動員の生徒らを慰霊する同市堂前の如宝寺も訪れ参加者が犠牲者を弔うとともに平和を誓った」（福島民友）。いずれも私たちが求める平和という視点を大事に報道してくれました。

こうした私たちの思いを逆なでする発言が、ロシアのウクライナ侵略での核攻撃も辞さないというプーチンの発言に乗じて、日本も「核共有」し憲法九条を変えようとする安倍元首相や日本維新の会の発言、断じて許せません。憲法九条を持つ日本としての平和外交こそ求められているのではないのでしょうか。私たちの使命は、郡山の戦争を語り伝えることによって未来に憲法九条を活かすことだと思っています。

二年間中止した「平和のための郡山戦争展」三十八回目になりますが、今年は開催することを五月二十七日の実行委員会で決定しました。八月十四日（日）と十六日（火）の三日間、会場は郡山市公会堂です。

「大軍拡、国民窮乏」で未来に希望持てるか。

日本の戦前国家体制や今のロシアが、戦争で何をもたらしているか。一目瞭然なのに、またもや戦争体制国づくりを画策する勢力が跋扈してきている。絶対許してはいけない国民の意思が問われている。命がけで戦争に反対し、現憲法を作り出した未来を語れる羅針盤も力強く存在している。手をつなぐ輪を大きくするとき



「教師にも銃を持たせればいい」と豪語するトランプ、ピカソの「ゲルニカ」の世界を平気で作り出しているプーチン。この二人にお友達になっても良かったとはいえない。日本の元首相。恥ずかしげもなくこの頃とみに倍の軍拡や核共有をぶち上げ、マスメディアでももてはやされる始末は異常ではないか。人間、人道としての感覚が疑われはしないか。

こんな時、この流れに押し流されそうになつて、憲法九条を語れず、共闘拒否、また、及び腰では始めから戦わずして負けを認めているようなもの。

しかし、国民の中には、脈々と平和を求め、正義を求める流れが本流として太くあることを示す時。歴史を前に進ませる力は、主権者国民だから。（菅原）

ジャーナリスト志葉玲さんの講演&リレートーク集会

ウクライナ現地取材から考える日本国憲法

6/18 14:30～ミュージカルがくと館 参加費 1000 円

主催 ミナセンなかどおり & 戦争させない・9条壊すな！福島県中の会

郡山市革新懇 会員募集中

年会費 3000 円 全国革新懇ニュース
福島革新懇ニュース購読料・送料含む



郡山市革新懇
ホームページ